

Servas Japan Tohoku



支部ニュース

No. 90

2016年12月29日

1 受け入れ報告	
M S (仙台市)	1
2 サーバス国内会議案内	4
寄稿1 マレーシアから : C N	5
寄稿2 台湾小旅行 : T S	8
事務局から	13

TOHOKU

1 受け入れ報告

M S (1)

受け入れ年月日 : 2016年8月17日~8月23日

トラベラー国籍 : 台湾

トラベラー名 : Y G 45歳 主婦

SS 16歳 学生

今年の夏の猛暑、次々と上陸してくる台風は、各地に甚大な被害を起こしているのは異常気象のもたらしたものでしょうか。サーバス・トラベラーが最も活動する時期なので、移動にも影響があったはずですが。

台湾からのサーバス・ゲストが仙台空港に到着の日も、大型台風が東北地方に近づいている時でした。心配性の Y は朝から何回も電話をかけてきました。しかし朝から降り続けていた雨も彼女たちの到着した時にはピタリと止みました。定刻に到着した Y と S ちゃんとも無事に会うことができました。



2007年に台湾の台北市で開催された「サーバス・東アジア会議」に参加した時に、私はYの家にホームステイをさせてもらいました。その当時、Sちゃんは小5で、分厚い辞書を引きながら夜遅くまで漢字の書き取りの宿題と格闘していたのを鮮明に覚えています。

中国語と台湾語は同じ言語と思っていた私にとって、このホームステイは二つの言語が違うものだと教えてくれました。現代のCでは簡体字(かんたいじ)が進んでいるのはよく知られていますが、台湾では小学生でも繁体字(はんたいじ)というとても難しい漢字を習っていることを初めて知ったのです。ほぼ毎日漢字の宿題が学校から出されることも教育に力を入れているのが分かりました。

あれから9年がたち、懐かしい再会が出来ました。当時、仙台ー台北間は週3回だけの飛行機の運行も今年度から毎日運行されることになったとか。台湾のサーバス会員数も増えてきていることで、サーバス会員の来日、来仙も増えてくるのではと期待しています。

YとSちゃんの仕草が余りに私たち日本人と似ているので1週間の滞在中に何度も日本語で話しかけてしまったものです。私たち日本人と台湾人の彼女たちとは共通点も多くあって受け入れには緊張をすることが通常より少なかったと思います。

特に食べ物には気を使うことが少なく日本食は何でも楽しんで食べてくれました。習慣の違いに苦労しなかった彼女たちですが、唯一出来なかったことが日本のお風呂に入ることでした。また1週間の滞在中にスマホを使いこなして仙台の名所めぐりなど、私が連れて行くことなく二人で楽しんで過ごしていました。現代の人々の生活には便利なスマホの使用が不可欠なことも感じさせてくれました。

彼女たちとの1週間の生活は今までのサーバス・ゲストと比較して、我々の家族に2人が増えたような親しみのあるものでした。

MS(2)

受け入れ年月日：2016年11月5日～7日

トラベラー国籍：オーストラリア

トラベラー名：

H N M T 57歳(男性)Photographer

V S D C 48歳(女性) Development worker

H S N 11歳(女性) 小学生

40年間も長くサーバスの活動をしていると驚くようなトラベラーに出会うものです。今回我が家に迎えたゲストもまさにその事を彷彿させられるものでした。H家族と会えたことで、日本人として生まれた自分たちはどれほど恵まれていたかをあらためて考えさせられました。日本という恵まれた国に住んでいるというのに、つついその恵みを忘れて不平不満言っている我が身に一石を投じてもらえた3日間でした。



ご主人の T はあの悲惨なヴェトナム戦争が終結した 1975 年の時は 16 歳で南ヴェトナムにいたのです。その時のことは筆舌に尽くしがたかったはず... で、詳しい話をしながらなかったです。奥さんの S が簡単に説明してくれただけでした。南ヴェトナム政府の崩壊によって北によるヴェトナム統一が行われたのが 1978 年でその後、多くのヴェトナムの人々は自分たちを受け入れてくれる国を外国に求めたのです。ボートピープルと呼ばれる避難民となって海上をさまざめたヴェトナムの人々の悲劇を我々世代は毎日の報道で知り、鮮明に覚えているはずで

現在のシリアからの難民がゴムボートでギリシアの島々にたどり着き・寒さで震えている放心状態の子どもたちの映像を見るとヴェトナムの悲劇を重ねてしまいます。

T は 25 歳の時に難民として国を離れて、オーストラリア・シドニーに上陸することができ、現在オーストラリア国籍を取得しています。

S は 35 年前の 13 歳の時に両親の決断で社会主義の国チリに見切りをつけてオーストラリアに移民をしたのです。親たちはもちろんですが、15 歳だったお姉さんも彼女も英語が話せず苦労の連続だったそうです。チリに住んでいる時から父親はストレスからお酒を浴びるように毎晩飲み、その後家族に暴力・暴言を吐きアルコール依存症になって一家は何度も窮地に追い込まれて行きました。働けない父親に代わって、母親は肉体労働をして生活費を稼いで家族を支えた芯の強い女性で、S の自慢です。私たちは彼女の話聞いていて心が痛くなるのですが、明るい性格の彼女は我が家に滞在中にも苦労話を楽しい話に換えてしまう才能に長けた女性でした。

S はとても利発な女の子で、我が家に滞在中は我が儘を言わず、然りとて緊張もしていないのが印象に残りました。大人たちのおしゃべりに嫌な顔をせず、自分の居場所をきちんと作ることの出来る少女でした。「この時間何をして過そうか」と自ら考えて、実行できる聡明を持っていました。3 日間の滞在中... ノートに文章を書き、本を読み、絵もとても上手に描いていました。

H 一家は 1 年間もの長期に渡り、サーバス・トラベラーとしてヨーロッパ 27 カ国を回ってきて、日本が 28 番目になるのです。娘を 1 年間、学校を休ませての旅ですからものすごいエネルギーが必要だったことでしょう。彼らの旅の目的は世界を観光して回るのと違って、彼らのこれからを考えるための大切な旅だったと推察しました。そして時間を充分かけて出した結論は..... 日本滞在の後はオーストラリアに戻らず「カンボジア」に行くことが決まっています。すでに家も購入していて「アンコールワットを案内しますから遊びに来てください」と誇らしげに言われました。数々の苦しい体験をした家族の選択・決断ですから私たちは喜んで見守り、新天地で逞しく生きてくれることを心から願いました。



2 サーバス国内会議

サーバス国内会議が以下の日程で仙台市で開催されますのでお知らせします。

会議場案の1

日立システムズホール（仙台市青年文化センター）

2017年3月18日(土) 12:00~18:00 研修室(1) 料金 4,320円

2017年3月19日(日) 9:00~13:00 研修室(3) 料金 1,920円

懇親会同施設1階カフェ&レストラン「けやきの杜」

所在地案内（ホームページより）

仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5 日立システムズホール（仙台市青年文化センター）

地下鉄でご来館の方市営地下鉄南北線：仙台駅から市営地下鉄南北線・泉中央方面行き10分、「旭ヶ丘駅」下車、東1番出口より徒歩3分。

バスでご来館の方市営バス：バス停「旭ヶ丘駅」より徒歩2分。

お車でご来館の方：東北自動車道「仙台宮城I.C.」を降り、仙台北環状線経由約30分
東北自動車道「泉I.C.」を降り、国道4号線、県道仙台泉線経由約30分

駐車場について：一般利用 100台（8:30~22:15）

料金1時間まで100円、以後30分毎50円

※センターの駐車場の台数には限りがございます。なるべく地下鉄(地下鉄・仙台駅より所要時間約10分) バス等をご利用ください。

3月19日(日)の会場候補

懇親会の会場候補は会場「日立システムズホール」の1階です。

けやきの杜：日立システムズホール仙台店

◆お店の特徴◆

日立システムズホール仙台店は、地下鉄旭ヶ丘駅下車徒歩1分。

H日立システムズホール仙台店内1階のレストンです。

音楽コンサートや楽器、ダンスの練習風景等が行われる中で

夜19:00迄営業しております。(ホール運用に準じ、一部変更有)

720円(税込)からの洋食、パスタ、カレーを中心に、

ラーメンやそば、うどんの麺類も好評です。

お替り自由のドリンクバーも好評です。

◆主なイベント、サービス(クーポン、利用券等)◆

全席禁煙です。

きれいな空間でごゆっくりお食事をお楽しみ頂けます。

ご宴会やパーティー、貸切も承っておりますのでお気軽にご相談下さい。

会議場案の2

1 仙台市民会館で2日間とも同じ会場施設で確保しましたが和室のみでした。

この案の場合、懇親会は別会場を探すこととなります

3月18日(土)和室(2) 12:00~18:00 料金 4,680円

3月19日(日)和室(1) 9:00~13:00 料金 3,120円

2 位置図

仙台駅から南北線勾当台駅(2駅目)から西に徒歩10分

寄稿1:マレーシアから:C N (マレーシア サラワク州クチン在住)

サーバスタイの方々の暖かさ

前回の寄稿では、JICA 青年海外協力隊としてマレーシアに派遣されて、日頃どのような活動をしているのかを中心にご紹介いたしました。今回は、今年の3月に同じくJICAのボランティアとしてタイで働いている友人に会いに行った際に出合ったディホストの方々についてお話をしたいと思います。また、TJICAの友人と経験した貴重な経験にも触れたいと思います。

タイのサーバス会員でディホストを受け入れてくれる人を探すのに最初は苦勞しました。しかし、日本語が少し分かるという男性の会員の方から、他の会員に声を掛けてくださるという嬉しい提案がありました。早速その方からタイ語で会員にメールが送られ、無事に二人のディホスト会員の方と会う約束をすることができました。マレーシアでの任務中にサーバス会員に会うというのが私の目標の一つだったのですが、それがようやく叶えられるということで嬉しかったのを覚えています。



2016年3月12日

ーバンコクにて図書館見学、サーバスディホストNさんと食事ー

この日はタイでボランティアとして働いている友人に、バンコクの図書館に連れて行っていただきました。実はバンコクの街中から20分タクシーで移動しただけの場所にスラム街があります。かつてバンコクでの建設ラッシュ中に仕事を求めて地方からやってきた方たちの住む場所だということです。私たちの訪問したクロントイ・コミュニティ図書館未来図書館(MIRAILIBRARY)はその中にありました。

これは SVA タイランド/シーカー・アジア財団が、運営しているものです。



サラワク州立図書館で働く私としては、バンコクのスラム街における図書館の役割にとっても興味がありました。せっかくマレーシアから行くので子どもたちのために何かできないかということで、日本文化である風呂敷の使い方のワークショップをしたところ、子どもも地域の大人も一緒になって楽しんでくれました。

そのお礼にということで、その図書館に毎日通っている子どもたちから「三匹の子ぶた」の劇をプレゼントしてもらいました。この地域では両親とも子どもの世話をみることができないほど朝から夜まで働いているということで、子どもたちにとって学校が終わったあとの遊びの場所がこの図書館だということです。子どもたちが図書館から帰る時には栄養をきちんと取れるようにということで、NGOから寄付されるというスナックもお土産にもらえます。親もここであれば安心して子どもたちを遊ばせて置けるということで、子どもたちは毎日この図書館にやってきます。そこで本を読みながら様々な表現力を身につけているようです。ある子どもが他の子どもたちの前で大型の本を読むと、全員真剣な表情で聞き入っていました。ギターに合わせて本の内容を歌うというアクティビティもあり、私も



任地で取り入れたいくなりました。

その後、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会理事兼アジア地域ディレクター、シーカー・アジア財団アドバイザーであるY K氏から、スラム街の中で植物が植えられている通りを見せてもらいました。Yさんがこの街の中に住んでいて家の前に花を植えていたところ、最初は興味を示さなかった地域の人たちが次第に真似をして植物を植え始め、自分たちで通りの掃除までするようになったということです。それからその通りを真似して他の通りの住民たちも自分たちの通りを緑と花で

美しく飾るようになったのです。「美しい場所にはゴミも捨てない、皆が真似をしたくなるようないい



例を作ることで全体が変わってくる」とYさんは教えてくださりました。

タイの方と触れ合う機会は他にもありました。タイから JICA を通して日本に研修に行ったことのある方々の交流会があり、そこに招待して頂いたのです。そこで、タイ在住の日本人の男の子がソーラン節を小学校で習ったということで、私たちも一緒になってタイ人の前で踊りを披露することができました。タイの方々には日本に対して大変好印象を持ってくださっており、旅行中に何度も日本語を流暢に話す方に声をかけてもらったり、道を教えてもらったりしました。日本語が分からなくても一生懸命教えようとしてくださり、大変ありがたく感じました。



この日の夜は、サーバス DHNさんとお会いして食事をすることができました。連絡がうまく取れず、約束がキャンセルになりそうだったのですが、なんと私の宿泊したホテルまで来てくださり、無事に会うことができました。タイの料理ではパイヤサラダとマンゴーともち米をいっしょに食べるデザートがおススメということで一緒に舌鼓を打ちました。タイのショッピングセンターのフードコートでは、最初の一箇所で全てのお店で共通に使える食券を購入してからそれを店に渡すというシステムでした。お金のやり取りが省けて手早く受け渡しができるということでしょうか。初めての体験でした。

その後夜店で服を買ったり、地元のスーパーでおススメのおやつを教えてください、バンコク



の夜を一緒に楽しむことができました。



2016年3月13日

—サーバスディホスト Nさんとその友人とのバンコク観光—

タイ最終日ももう一人のサーバスディホストであるNさんとその友人の三人で観光をしました。タイといえば、ということで仏教寺院をまわり、タイの人はどのようにお祈りをするのかということの説明してもらいました。夜は時間があれば自分の部屋で瞑想をするそうです。できるだけお布施をしたり、お祈りをしたりすることで徳を積むのだということでした。日本の寺院とはまた違った雰囲気を楽しむことができました。また、バイクに荷台をつけたトゥクトゥクタクシーに乗ったり、おいしいご飯を食べて満足してマレーシアに帰りました。来年3月の任期終了までがんばります。

寄稿 2: 台湾小旅行: T S

8月下旬、前の勤務校の図書館で調べ物があり、その後学食で元同僚のSさんと昼食を食べた。彼は日本古典文学が専門で、9月に台湾大学での共同研究のため3週間台北に行くとのことだった。台湾大学で『源氏物語』を出版し、その解説を彼が行うという話だった。Sさんは私より2歳下であるが、今年から文科省から研究資金を5年間もらうことになり、

引き続き大学で特別研究員として残っている。研究室も使えるので、研究三昧である。彼はこれまでも何度も台北に行っている。私も 8 月末で論文を一本書き終えたので、息抜きに台北に行くことにした。アジアではこれまで香港とバンコクにヨーロッパの行き帰りにちょっとした間いたことがるが、台北は初めてである。早速飛行機を予約しようと思い、ネットで調べた。いくつかの LCC(格安航空機)を見つけた。驚いたのはその料金の安さである。羽田-台湾間がホテル込みで 2泊4日 19,800 円なのである。飛行機会社はピーチという会社であった。以前から LCC は安いと聞いていたがこれほどの料金で台湾を往復できるのかと半信半疑であった。2泊4日 19,800 円という料金は新潟-東京間の新幹線料金よりも安い。ただ 19,800 円という料金は二人部屋で、一人部屋として使う場合は特別に 15,000 円チャージされる。私は知らない人との相部屋を好まなかったので、追加料金を払い、一人で二人部屋を使うことにした。(台北のホテルについては後述する。)

出発は 9 月 14 日 5 時 50 分である。LCC は料金は安い、その代わり出発や羽田到着時間が不便である。大手の飛行機会社ならば良い時間に出発、到着である。今回は朝 5 時 50 分発なので前日羽田に来て、朝方の出発までロビーで待つことになる。あとでネットで調べたら空港内にカプセルホテルがあった。羽田空港は以前のイメージとは異なる。私が初めてヨーロッパに行ったときは羽田発だった。南回りのパリ行きで、香港、バンコク、アンマン、ローマと飛行機は止まった。午後に羽田を立ち、翌日午後夕方パリに着いた。24 時間以上のフライトであった。1970 年代初めである。その後成田が国際便、羽田が国内便となった。最近羽田発の国際便は多く、空港は一晩中飛行機の発着で、人の流れも後を絶たない。ヨーロッパや北米の便もある。

チェックインは搭乗 2 時間前の午前 4 時前に始まる。機内は満席で、予定通り羽田を立ち、約 3 時間半で台湾到着である。機内では飲み物などは有料で、一切のサービスはない。台湾には二つの国際空港があるが、今回は桃園空港であった。台北の西約 50 キロの所にある。空港には S さんが迎えに来てくれた。空港から台北駅までは地下鉄が建設中で、来年 3 月に開通とのニュースを帰国後に知った。バスでは台北駅まで 50 分位。あいにく到着した日は台風が台湾に接近中で、午後からは雨突風であった。夜のホテルのテレビはどこも台風のニュースであった。

台北までの車中からながめる台湾の町並みは古い、一昔の日本のようであった。あちこちに漢字が見え、なにか親近感を覚える。外国に来たという実感はわからない。台北駅も台湾では一番大きな駅であろうが、人はそれほど多くなく、閑散としている。ガイドブックで調べたら台湾は九州ぐらいの広さで人口は 2,300 万人程であった。昼近くだったので、駅構内の食堂で昼食を食べることにした。

昼食後ホテルにチェックインしに行った。台北駅から地下鉄で遠くはなかった。ホテルは「三徳大飯店」といい、我々日本人には一見中華料理店を連想させる名前である。このほかに「・・・酒家」もホテル名である。「三徳大飯店」は英語名は「サントスホテル」である。日本人旅行者がほとんどを占めるとガイドブックには書かれていたが、堂々とし

た素晴らしいホテルで、私が日本では利用することのない豪華なホテルであった。台北の名の通ったホテルの料金は概して高く、日本円で2万円以上はする。「三徳大飯店」もガイドブックには一泊6,000元以上と書かれてあった。日本円に換算するにはその4倍である。こんなに豪華なホテルが2泊（朝食込）+航空運賃で2万円以下とは驚きである。部屋はベッドが二つあり、バスタイレ付きで広々としている。テレビはNHKもリアルタイムで見られ、海外にいる気はしない。それにホテルのフロントも従業員も日本語を話し、まったく不自由しない。Sさんも一人ではもったいないと言っていた。

チェックインを済ませた後、外に出ようとしたら雨に突風である。傘もさしてられないほどである。どこに行こうか迷ったが、最初孔子廟に行くことにした。孔子廟は学問の神を祀る廟で、Sさんいわく「我々も一応学問の道歩んでいるので行きましょう」ということになった。雨なので誰もいない。がらんとした敷地内に建物があり、そこに孔子像があるだけだった。売店近くには願掛けのお札が多く掛けられていて、日本で見る光景と同じであった。願掛けのお札には多くの日本語の願掛けが見られたが、あれはわざわざ日本からの受験生が書いたものであったろうかそれとも台北在住の日本人受験生が書いたものであったろうか。

一日目は夕方Sさんが仕事をしている台湾大学の図書館で働いているCさんという若い女性と3人で中華を食べることになっていた。6時頃台北三越前で会うことになっていたがまだ時間があったので、歩いて行ける大龍峒保安宮に行くことにした。ここも平日でしかも雨ということで誰もいなかった。ここは医学の神を祀る廟であるが、概して台北の廟や寺院は派手である。日本の寺院には色彩感はないが、台北に限らずアジアの寺院はその派手な色彩が特徴である。週末には人も多く屋台の店も多く出て、にぎわうそうだがあいにくの雨突風でさみしい限りであった。

台北の交通手段は地下鉄が便利である。2,000円程度使えるカードを購入し、お金がなくなったらその都度チャージする。日本と同じである。台北では移動のさいにはほとんど地下鉄（MRT）を利用した。台北に着いた9月14日は中秋の名月の日であった。夜には一時風雨も弱まった。三越の前でCさんを待つ間、デパート内を見ることにした。一階は女性の化粧品売り場であった。空港に着いて以来台湾女性にこれかと思う女性は見かけなかったが、この売り場の女性はさすが化粧品売り場だけあってきれいな女性が多かった。台湾では中秋の名月の日には月餅を食べる風習があるそうだが店内外で月餅を多く見かけた。日本円で一個2,000円位だった。

6時過ぎCさんが来た。彼女は大学で日本語を勉強したそうで、日本語が上手である。物静かな女性であった。3人でSさんが予約していた中華料理店に出かけた。店に行く頃には中秋の名月もはっきりと見れた。Sさんの教え子の一人は中国人で、今は上海の大学で日本語を教えているが、彼女に台北にいるとメールを送ったらすぐ返事が来て、上海では中秋の名月を見ているが台北はどうかと言っていたそうである。

中華料理店内は予約なしでは席を取れないほど家族連れで一杯だった。私は肉は苦手な

ので魚を主に食べることにした。Sさんは上機嫌でワインを飲んだ。私も飲んだが、赤ワインで酸味がきつかった。Cさんはあまりしゃべらない。私としては中国と台湾の関係や現政権のこととかいろいろと聞きたかったのだがそれもできなかった。Sさんによれば彼女の父はタクシー運転手だそうである。彼女も今の図書館での仕事はパートで手当てもそう良くもなく、9月一杯で終わると言っていた（帰国後SさんからCさんは次の仕事が見つかるまで図書館で働いても良いと上司から言われたそうである）。彼女は質素な生活をしており、昼は何を食べているのかと聞いたら冗談かどうかはわからないがカップラーメンと笑って答えていた。おそらく彼女からしてみれば中華料理店で食事することなどはないであろうと思うほど立派な料理店であった。

二日目、朝食はホテルで食べた。日本同様バイキング式であった。食堂内はほとんどが日本人であった。ホテルにSさんが来てくれて、今日は最初故宮K物院へ行くことにした。外は昨日ほどではないが、曇り時々小雨であった。ホテルから傘を借りて、いったん地下鉄で台北駅まで行き、それからバスで故宮へ行った。故宮は台北では観光の筆頭で、大勢の人がいた。ガイドブックによれば日本の敗戦で中国の財宝は南京に戻ったが、内戦で国民党は敗れ、台湾に逃げたがそのさいに財宝が台北に運ばれたそうである。いまだに中国側は財宝をCに返還を要求しているとのことである。68万の収蔵品があり、全部見るには8年を要するとガイドブックには書いてあった。実際展示品を見ると我々観光客に興味のあるものは多くない。もっと古いものがあるかと思ったが予想外に少なく、やはり古いものは中国本土にあるのだろう。佐藤栄策氏や他の日本人寄贈の壺もあった。数時間で見終え、館内で昼食を食べ、外に出ることにした。

今夜も昨夜同様Cさんと一緒に夕食を食べることになっている。時間も十分あるので私は日本統治時代の建物を見たいと思った。台北には総統府や台湾大学など官公庁関係の日本統治時代の建物はある。それらはネットでも見れる。私はそのような建物よりも一般の日本人が住んだ建物に興味があった。Sさんは場所は忘れたが日本人の官舎であった古い木造の建物に連れて行ってくれた。そこは平屋建てで、戦前の日本の建物を思い出させるものであった。屋根の一部は朽ちていたが、建物自体はまだしっかりしていた。残念ながら中には入れなかった。次にSさんはタクシーで喫茶店に連れて行ってくれた。タクシーはプリウスであったが、運転手はあまり英語が話せず、会話はできなかった。その喫茶店はメインストリートの脇にあり、「紫藤廬」(Wisteria Tea House)という喫茶店であった。ここは日本統治時代の日本人の家屋を店に改造した喫茶店である。店の名刺には「生命的故郷・思惟的故郷」（ちなみに中国語で「的」は「の」の意味である）と書いてある。店の玄関には藤のつたがあり、春には見事な藤の花が見れるのだろう。台湾のお茶は種類が多く、我々は店のお薦めのお茶を飲むことにした。お茶の飲み方は最初熱湯をお茶碗（極小！）に入れ、お茶を入れる前にお茶の香りをかぐ。それからお茶を熱湯に入れ、飲む前に香りをかぐ。次にお茶を飲むが一気に飲まないで、口の中でお茶の味を楽しむ。最後にそのお茶を飲み干す。どこか西洋人がワインを飲む方法与似ている。若い店員が英語を話

せたのでいろいろと聞いたが、Tは気候が温暖なため多くの種類のお茶がとれる。帰りに飲んだばかりのお茶を買おうと思ったがあまりの高価に買わないでしまった。この建物にはどのような日本人が住んでいたのかと聞いたら軍人らしかったこと以外は何もわからなかった。二階もあったが今は使用していないということであった。建物は戦前の日本の建物のように、外観は茶色っぽく日本風にしてあった。

夕方まで時間があるので、台北の人が買い物に行く通りに行った。そこは東京で言えば上野のアメ横みたいな所で、様々な乾物が売っていた。土産物を買うにはちょっと格が下がるかと思うようなところ、買う気にはなれなかった。通りを歩いていたら、Sさんがまたお茶屋さんを見つけ、奥の二階で休みがてらお茶を飲むことにした。若い店主は結構日本語がうまく、なんでも日本アニメから日本語を学んだという。この通りのはずれには漢方の専門店が多く建ち並んでいた。この後も結構あちこち歩いた。若者がたむろする一面にも行ったが、私にはまったく興味はなかった。

夕食は3人で市の北にある中華料理店で食べた。今回も昨日同様魚がメインで、結構おいしかった。Sさんはワインを飲み、余ったワインは持ち帰ることにした。Cさんから台湾には中国語と台湾語があると聞いた。Cさんは両方を話す。「さようなら」は中国語では「ツァイツェン」だが台湾語では「サイケン（再見）」と言うそうである。別れに「サイケン」と言ったら、Cさんはにこっと笑ってくれた。昨晚同様中華料理店は満員であった。外国人は見られず、すべて中国人であった。店内は豪華であったができれば私はもっと庶民寄りの中華料理店で食べたかったというのが本音である。中華を食べた後、Cさんと別れ、台北名物の夜市を見に行こうというので、とある夜市へ行った。なかにはいかがわしい夜市もあるそうだが、我々は健全な夜市へ行った。夜の9時過ぎというのに夜市は人でごったがえしていた、店のほとんどは食べ物店で、若い人が圧倒的であった。お土産でも買えるかと思いきやお土産らしきものはなかった。ただただ人の波である。ガイドブックには台北の夜市は必見と書いてあるが大したことはない夜市であった。

3日目。台北に来て初めて青空が見え、結構暑い日であった。今日の夜8時45分桃園空港発である。荷物をホテルに預け、市内を散策することにした。その前にお土産を買おうと思い、ホテルに聞いたら、目の前に名物のパイナップルケーキを売っている店を紹介された。早速その店に行き、何個か買った。ホテルに戻り、お土産をバッグに詰め直し、また出かけた。途中歩いていたらお土産店があり、多くのお土産が売っていた。帰りに買うことにした。店内は本土からの中国人、韓国人、それに東南アジア人らしき観光客でごったがえしていた。

最初、龍山寺へ行くことにした。台湾で最も古い寺ということもあつてか寺院内は人で一杯だった。線香のにおい、花、お供えの果物、そして膝をついてお祈りする人、日本のお寺とは違った雰囲気であった。次に行ったのが西本願寺である。京都にある同名寺院の別院である。1896年に設立されたが1975年火事で消失した。今残るのは本堂のコンクリート製の土台、階段、欄干それに鐘楼である。がらんとした静かな空き地が印象的

であった。その脇に樹心会館という建物があり、中には戦前戦後の日本の映画のポスターが多く貼られてあった。

桃園空港での搭乗手続きが7時前に始まるので、早めに空港に行くことにした。SさんとはT駅で別れ、バスで空港に向かった。搭乗手続きも予定通り終わり、搭乗ゲートに向かったが、一つだけありがたいことがあった。それは機内持ち込み手荷物である。羽田では機内には持ち込めないと言われ別料金を払ったが、桃園空港では機内持ち込みOKだったのである。私の小さめのバッグは機内持ち込み用と言われて買ったものであるが、羽田では係りの人は見た目で判断したようだ。搭乗手続きでバッグは機内に持っていてもいいと言われたとき羽田では別料金をチャージされたと言ったら、機内持ち込みできると言われた。一瞬あれ？であった。

帰りも機内は満席だった。帰りは追い風なのでわずか2時間半位で羽田に到着した。問題はそれからである。飛行機は深夜1時羽田着である。都内には行こうにも交通手段がない。タクシーはあるがホテルも予約していないので、朝まで空港内で過ごすことにした。LCCは確かに運賃は安い、発着時間は不便である。若い人にはどうってことはないだろうが年配者にはこたえるだろう。そういえば行きも帰りもお年寄りはいなかった。先日ネットで台湾2泊3日15,000円というのを見た。日本国内旅行よりも安い、デメリットもあることを覚えておきたい。

帰国後Sさんから台湾の歌手についていろいろ教えてもらった。台湾の歌手が日本の歌を歌っているのである。YouTubeで調べたら、確かに台湾歌手が多く出ていた。力強い歌唱力、完璧な日本語、感情の入れ方、どれをとっても日本人歌手並みかそれ以上である。一時彼らの歌にはまってしまった。今でもときどきSさんから借りた台湾歌手のCDを聞いている。

[事務局から]

2016年度最後の支部ニュースです。今年度は夏以降トラベラーはMさんが受け入れた一組だけで、その結果受け入れ報告もMさんの報告だけとなっています。マレーシア滞在中のCさんからは前号に引き続き、レポートを送って頂きました。レポートにも書いてあるようにCさんは来年3月までのマレーシア滞在中です。私が訪れた台湾は近くて遠い国といった感じがします。親日的な台湾の人々ですが、知らないことが多すぎる国でした。

来年3月には日本サーバス総会が仙台市で開催されます。興味のある方は是非参加をお願いします。全国の会員と知り合うチャンスです。

この支部ニュースが皆さんに届くのは年明けかもしれませんが、どうぞ良いお年を迎えて下さい。[文責：T S]